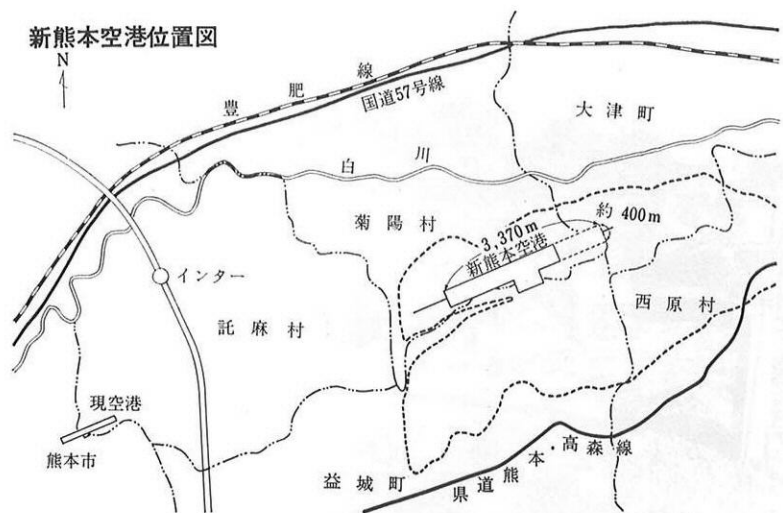


熊本新空港の建設

世界の航空輸送界はジェット時代の十年目を迎え、その旺盛な輸送力に支えられジェット機はますます大型化、スピード化する傾向にあり一九七〇年代の超音速機を迎える以前に輸送力が著しく大きいジャンボジェット機あるいはマンモスジェット機ともいわれる超大型ジェット機の登場を見ようとしている。



わが国の民間航空は昭和二十六年再開以来急速に発展し、国際面ではここ数年米対米、対ソ航空交渉によって得た世界一周線および東京、モスクワ間の欧亜連絡最短路線の開設ならびに大阪国際空港の整備、成田空港の新設計画等、飛躍的發展を示している。国内線でも現在第一種空港二、第二種空港十七、第三種空港二十九、その他十六計六十空港（ヘリポート三十を除く）が整備されており、その利用も昭和三十七年十六億人（注・人口は）

新空港建設はなぜ計画されたか

乗客の延べ飛行距離 昭和三十八年二十二億人、昭和三十九年二十七億人と急速な増加を示している。次に貨物の輸送も昭和三十九年は前年に比べ三〇割の増加を続け、航空輸送が旅客の交通機関としてのみならず、貨物の輸送機関としての利用価値が認識され、そのシェアも次第に高まっている。その他薬剤散布、写真撮影、報道取材などのいわゆる産業航空も年々目覚ましい伸びを示しており今後航空輸送は輸送機関として大きなウエイトを持つものと思われる。

第一の理由は滑走路三千尺級の大型空港を熊本に誘致し本県発展の基盤にするためである。すなわち立地的に見て九州には東京、大阪国際空港につぐ大規模空港の設置が可能であり、将来中距離国際線（中国、東南アジアなど）の乗り入れの見通しがあること。また本県は九州の中央に位置しており、九州縦貫自動車道、九州横断道路など陸上交通の要にあり、空港が設置されれば、きわめて重要な機能を果たすことになり、本県の地位は確固たるものになる。

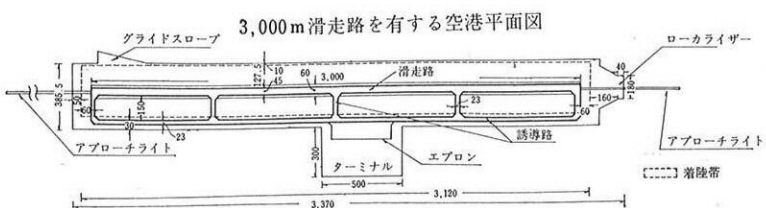
第二の理由は現空港を移転する必要があるためである。すなわち飛行機の発展、旅客の増加にともない空港もより大きなものが必要となったこと。あわせて

灯を設置した、最も新しい空港となる。

空港建設後の県勢

航空機の事故を少くするため空港に無線誘導装置などの近代設備を備えるため用地の幅、長さともに相当のものが要求されるわけで、これらの条件を満たすには現空港では地形的に無理で空港を移設拡張せざるを得なくなったわけで、新しい候補地を物色し気象、地形運航条件等を航空局の専門官に調査してもらった結果滑走路三千尺級の空港としては菊陽村、益城町、大津町にまたがる「高遊原」台地こそ最適地となつたわけである。

新空港の建設計画



国では県からの強い要請もあり本年六月に最終的に熊本空港整備計画の第一期工事として、昭和四十六年までにこの「高遊原」台地に、熊本空港を移設することを決めたわけその規模は用地の幅四百尺、長さ二千三百七十尺、面積約一〇〇万平方メートル、着陸施設や進入

本県は立地的に九州の中心部を占めているが、大型空港が設置されると、陸上交通網の整備とあわせて、九州の空の表玄関となり本県の前途は洋々たるものがある。まず東京、大阪との距離が短縮され、人の交流がひんばんになることは産業、経済、文化の発展にとって非常に重要なことである。これにより本県へ企業が進出してくることは勿論のこと、県産品の中央進出もより発展するものと思われる。又観光面についても、本県は阿蘇、天草をはじめとして多くの観光資源にめぐまれていて、観光客は熊本にやってくるようになり、その数は飛躍的に増加するものと思われる。

地元の開発について

本県百年の大計のため、大空港の建設はぜひ成しとげなければならない重要事であるが、しかしながらそのため不幸な人が一人でもあつてはならないのである。県では、そのための対策もまた真剣に考えている。単に空港だけをつくるのではなく、空港建設を一つのきっかけとして「高遊原」周辺台地一帯の開発を次のように進めて行くつもりである。

水資源の開発

当地域は純畑作地帯であるので、農業経営の近代化を促進するためには、まず水資源の開発と高度利用による営農計画を樹立することが必要である。そのためダム新設による貯水、既設ダムの改修および地下水利用などによる取入れ計画をたて営農改善に資することにした。

(1) 地表水の開発

地区東部阿蘇外輪山の麓にある大切畑溜池のカサ上げ改修を行ない、貯水量を最大限に確保し、余水及び冬期間の余剰水を導水路の新設により高遊原台地中央部下流の深迫ダム（新設）に貯水し、白水台地および菊陽台地のかんがい用水に供する。

さらに台地内に小規模の溜池の新設が考えられるので、これらの分も併せて併用することも予想できる。

なお、木山川の洪水調節ダムを建設省で計画中であるが、このダムの建設目的は下流の洪水調節が主なる目的で、災害を未然に防止するものである。これを多目的ダムとして治水および利水計画と併せて事業を行なうよう要請するものである。

利用水については、現在のところ建設省において具体的な水量が明確にされない。別途西原村とその周辺の農業開発計画を樹立する。

(2) 地下水の開発

益城台地、菊陽台地の一部については地表水の補給としてさく井による畑地かんがいを行なう。

農地保全（排水計画）

開田などにより流出する排水および深迫ダム新設にともなう余剰水の排水などの処理については実情に応じ排水路の新設改修を行なう。

農道の新設および補修計画

白水台地を主体とした耕作道路については、補修を行なうとともに地区外の消費市場に通ずる幹線道路を新設するものとする。

農地の集団化および圃場の整備

(1) 農地の集団化
白水台地および菊陽台地並びに益城台地を対象に交換分合を行ない、農地の集団化につとめる。

(2) 圃場整備計画
開田を実施する全域について圃場整備事業を実施する。

代替地計画

台地一帯の山林原野を農地造成し、希望者にあつせんする。

（新空港建設管理室）